集落の民俗芸能における集落外の演者を確保する「通い神楽モデル」の構築
―花巻市大償神楽における集落主導の活動モデルの設計と実装―

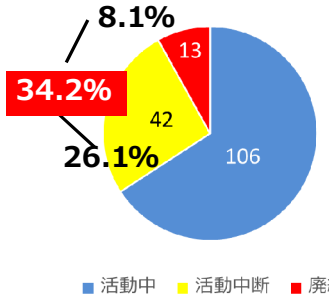
政策・メディア研究科　修士２年（花巻市地域おこし研究所）吉田　真彦/Mail：masahiko.yoshida3@gmail.com

キーワード：民俗芸能、通い神楽、集落外在住者、大償神楽、花巻市

目的 – 民俗芸能の演者確保の新しい手法の基礎をつくる

背景 – 演者不足による民俗芸能の消滅が進むが、外的要因の解決は難。
→演者を確保する手法に着目

岩手県花巻市の民俗芸能の活動状況(n=165)



出典：花巻市文化財課提供資料よりグラフ作成

原因は**演者不足**

演者不足の原因として…

・人口動態の変化
　ー地域の過疎化、少子化現象

・生業形態の変容
　ー地域住民のサラリーマン化
　（1999,星野）

集落だけでの解決は困難な原因

現在の演者確保の手法

伝承の論理(2006,澁谷)により規定
『演者として望ましいのは、**近郷の人々**』

対象とするのは…

・集落住民及びその近隣地区の住民
・近隣地区の学校に通う児童・生徒

しかし…

・活動限界→集落外の演者に頼る(2009,星野)
・集落外の演者の活動(2014,阿部,2006、澁谷)

集落外の演者を確保する新たな手法に焦点

調査方法 – ①演者確保の課題を解決する「通い神楽」の実証実験
②行政機関（市町村）への民俗芸能の維持保存政策に関する実態調査

「通い神楽」の概念を構築

①現住地からの「通い」で活動
②集落の演者が主導して実施
③集落外の演者が「集落の演者が行う民俗芸能活動」に参加
④集落内外の演者が共に活動の仕組みを改善
⑤行政が「通い」をバックアップ

モデル構築

「通い神楽」モデルを設計

実装

大償神楽(花巻市)での実証実験をＳＦＣの学生・研究員の参加を得て実施

結果 – ①通い神楽による活動参加・持続の要因と課題が明らかになった。
②集落外の演者を確保する手法が検討されない理由が明らかになった。

集落外の演者を確保し、活動を持続する要因

ＳＣＡＴフォームによる通い神楽楽の発言・行動記録の分析（抜粋）

赤：集落外の演者を確保し、活動を持続する要因

ストーリーライン（現時点で言えること）

・通い神楽楽は、当初は民俗芸能の「一舞」に取り組み、やりきることに不安があったものの、１回目の対面稽古終了後、**通い神楽楽による自主的な稽古**や、**新たな芸の習得方法の開発**等、現住地において自らの芸の向上を図ろうとする行動が起こった。

・最終回の第4回が終了した際には**「集落の演者の皆さんが熱心に指導してくれてありがたかった。」**「今後も大償神楽に通い続ける方法を考えたい」といった発言が複数の参加者から見られた。

・実証実験の終了後に実施したグループインタビューでは、通い神楽を継続する上で、**通い神楽による活動意義の明確化**、「通いを中断した際の対応」「通い続けるためのモチベーションの維持・向上のための成果披露の機会創出」、「**民俗芸能の経験を持つ者同士のコミュニティ形成**」「集落の演者も通って指導する、**双方向の通い**」等の必要性が、通い神楽モデルの改善時に集落の演者の協議を要するものも含めて示された。

大償神楽による「通い神楽」への評価

ＳＣＡＴフォームによる大償神楽の演者の発言・行動記録の分析（抜粋）

赤：演者確保における課題　／　青：通い神楽モデルの実装による利点

ストーリーライン（現時点で言えること）

通い神楽モデルは、**演者確保の手段としては地理的、時間的制約**が懸案となるという指摘があった。一方、**「自分が教えている内容が大償神楽として正しいか」を振り返る契機**であること、集落外の演者の発想から、**芸の習得について見取り稽古以外の有効な手法に対する気づきを得られた**、としている。

また、**四創に神楽の前古に取り組んだ人が地域との橋渡し役になり、神楽の存在や魅力を広めてくれることに期待**している。さらに、通い神楽楽が「真剣に稽古に取り組んでいる」ことが伝わると、真剣に指導しなければならないという意識が芽生え、**稽古を通じて「心が通う」**状態が生まれていた。

集落外の演者の受け入れには、複数の会員が必要性を感じているが、集落住民が守ってきた歴史を尊重し、**集落住民で守っていくのが基本である**という意見もあった。

また、**芸が上達しないことによる自然淘汰**も懸念され、**本当に好きで、自主稽古を重ねながら、芸の向上を図るくらいでなければ続かない**という声もあった。

そして、集落外の演者が伝承活動に参加するには、大償神楽を**稽古し続け、活動に参加し続けられるかどうか等を、保存会員が見極める基準が必要**と考えている。

「集落外の演者確保」が進まない原因

「集落外の演者確保」は、対策として検討されていない

澁谷(2006)が指摘する原因

①集落外の演者への指導は負担大
②演者として定着するかを疑問視
③集落が「どうにかなる」と楽観視

疑問…

演者確保の手法を広げる契機が無いことも理由ではないか？

推測理由として…

・先行事例において**「依頼」から始まった**集落外の演者の活動が**今も持続**(2018,大正大学地域構想研究)
・大償神楽も**同様の経験有→通い神楽を受入**
・通い神楽参加者は**「活動の意義」を求める**

つまり…

集落外の演者との活動における経験が、伝承の論理が拡張したのでは？

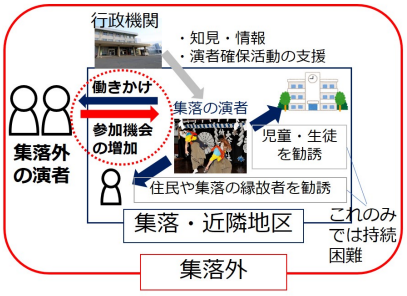
このことから…

推察される+αの原因

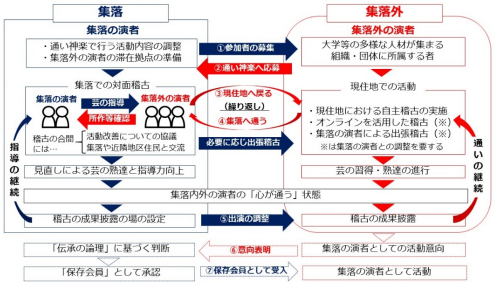
④演者確保に関する知見の不足
⑤意義や醍醐味等の情報発信の不足
⑥伝承の論理を見直す機会の不足

まとめ　－本研究により、演者確保の新たな手法を検討するための基礎を構築

将来の伝承の論理



通い神楽モデルの改善



演者確保を支援する政策の提案

行政機関の役割の方向性	意図	具体的な事業	期待される成果（成果の把握方法）
①演者確保の手法に関する情報収集・提供及び学習機会の創出	集落の演者が、演者確保の新たな手法を検討している（伝承の論理の見直し）	・**演者確保の先進事例の調査研究** ー結果を意見交換会等の場で情報提供 ・**先進事例や手法に関する学習会開催** ー民俗芸能団体の希望による講師調整	演者確保の新たな手法を検討する民俗芸能の増加（民俗芸能団体への質問紙調査）
②集落の演者が行う民俗芸能の情報発信の場づくり	集落の演者自身が、民俗芸能の意義や価値を発信している（伝承の論理の拡張準備）	・**行政の情報発信媒体の活用** ー公演情報の他、演者の思い、公演や稽古の様子等を発信 ー広報誌、HP、SNS、市町村外在住者向けのサイト（移住定住、観光、シティプロモーション等）への掲載	・民俗芸能との接点を持つ者の増加（主催公演の来場者数,SNSのいいね!数,HP閲覧数等） ・政策への活用促進（各部署への照会）
③民俗芸能団体が新規に行う演者確保の取り組みの側面支援	集落の演者が、演者不足解消の手法を開発・実行している（伝承の論理の拡張）	・**集落の演者による演者確保の実践支援** ー連携する大学・企業等へ参加者募集のアプローチを仲介 ・**集落外の演者の成果披露会の開催支援** ー会場確保や学校・関係団体等への案内	民俗芸能の演者活動への参加者増加（支援事例の追跡調査）

新たな手法の基礎づくりのための検証を行う「土台」を構築　→　今後検証を進める